

平成24年度 地区別計画推進研究会を開催！



▲23年度の研究会で発表した地区のその後の取組をパネルで紹介



▲平成24年12月12日 港南公会堂にて開催



▲今回のコーディネーター
田園調布学園大学の村井先生

テーマは「見守りから考えよう！地域のつながりづくり」



昨今、高齢者や障害のある方などが近隣に気づかれずに亡くなり、相当日数が経ってから発見されるという、いわゆる「孤独死・孤立死」という痛ましい出来事が続き、大きな社会問題となっています。このような問題を減らしていくため、地域の人を孤立させない、異変にいち早く気がつき助け合う「見守り活動」が各地で行われています。まさに、「見守り活動」は第2期港南区地域福祉保健計画のテーマである「地域のつながりづくりやお互いに支えあえるまちをめざす」活動なのです。

第2期港南区地域福祉保健計画が策定されてから2回目となる「地区別計画推進研究会」。今回は、「地域で見守り」をどうやったら実践的に進めていけるか、見守り活動等を切り口に地区別計画をどうやって推進させていくのかのヒントやノウハウを皆様に持ち帰っていただこうと2つの地域の事例発表とパネルディスカッションを行いました。



第1部 事例発表

日野住宅地自治会の長会長からは、自治会町内会の日常的な活動や話し合いなどの積み重ねを通して「つながり・見守り」の関係が築かれていることを中心に発表いただきました。

日下地区社会福祉協議会の福山会長からは、長年に渡って続けられてきた支えあい訪問などの活動紹介と地区別計画策定・推進をきっかけに地域の活動や見守りネットワークが広がっていった経過について発表いただきました。

2つの地区に共通して発見できたこと

事業の多彩さ

事業の数が多いだけでなく、事業すべてがつながりや出会いのきっかけとなり見守る取組へとつながっている。
日常生活を支えることが、見守りへとつながっており、自然な形での見守りになっている。

防災グッズ （「命のカプセル」「安心くん」） などを配布

気になる人やリスクのある人を把握できている。あえて消費期限つきのもの（水や電池など）を配布することで、再訪問するきっかけになっている。

たくさんの方が 行事などに参加

自然とお互いが顔見知りになり、つながりやネットワークができています。

「つながり・見守り」は日頃の活動から



日野住宅地自治会は専門部が6つあり、部ごとに様々な事業を行っています。

例えば、居住者名簿の編成（総務部）、防災訓練（防災部）、昼夜の防犯パトロール（防犯部）、ごみ集積場所の増設（環境部）、高齢者ふれあいの輪を広げる活動や、ごみ出し・雪かきなどのお手伝いをする福祉ネットワーク*（福祉部）、夏のラジオ体操や秋の焼き芋大会（家庭子ども部）など多くの活動を行っています。どの活動も課題を見つけ、話し合いや見直しを積み重ねて実施しています。結果がどうあれ、プロセスが大事だと考えています。

自治会で行っている多くの事業は、日常の継続的な活動で、これが自然と「つながり・見守り」の活動になっているのだと思います。そして、行事は事業に参加するための人間関係づくりであると思っています。

*福祉ネットワーク事業とは、地区社会福祉協議会が中心となり、住民相互の助け合いをボランティアで行う活動です。外出支援や家事援助、話し相手など地区ごとに様々な活動が行われています。



長会長の

日野住宅地自治会 長 信男 会長

活動ポイント 《自治会のここ3》

- ▶ 同じ地域で生活している人との縁をお互いに実感しよう
地域の方は同じ船に乗った運命共同体なので、お互いにその縁を実感できるようにします。そのために、ご近所の助け合いや日常の支え合いを継続的にやっていくことが自治会の第1の目標です。
- ▶ 住みよい環境をつくる
日常活動で「安全」「安心」「清潔」の活動を続けていると形（美観）になって現れてきます。きれいになると人の心は安らぎます。
- ▶ できる人が、できるときに、できることを
これが原則だと思っています。そして、「できる人」がやったことの成果は皆で分け合います。
- ▶ 転入者へのお声かけ
防災・防犯グッズの配布や、自治会で行っている活動や子ども会、老人会などの情報をお届けしています。



日下地区では、民生委員・保健活動推進員・友愛活動員・ボランティアの4者で日下地区ささえあい訪問事業を行っています。一人暮らし等の高齢者で訪問を希望している方を対象に、月2回、健康状態や気になることは無いか伺い、時にはケアプラザや区役所につなぐこともあります。また、福祉ネットワーク事業「ピープル日下」では、庭木の手入れや掃除などの活動から日常的な見守りへと発展しています。以前訪問した方の中から「一人暮らしになって住み慣れたこの地域から離れて、娘のところへ行こうかと諦めていたけど、まだここで暮らせそうだな」と言われ、とても嬉しかったです。

日下地区地域福祉保健計画を策定してからは、地域住民の意識も高まり、各々で活動していた様々な団体が、自分たちで出来ることを話し合い、協力して事業を行うなど、まとまりができました。この地域で暮らしている人々や子どもたちに「日下に住んでいて良かった」、「ここが故郷だ」と思ってもらえる地域づくりを進めていきたいです。



福山会長の 活動ポイント

- ▶ **地区別計画の推進には町内会・団体・ボランティアグループの連携が欠かせません**
懇談会や交流会で情報を共有したり、地域の行事や活動をそれぞれの団体が連携したりすることで高齢者や子育ての活動に広がっています。
- ▶ **「見守り」にはいろいろな形があります**
閉じこもりがちなお家の家庭への訪問は、チームでかかわり、その人とつながりがある人が多くなることで色々な行事に誘い易くなり、さらにつながりが広がります。
- ▶ **防災グッズ「安心くん」の配布**
定期訪問している高齢者160世帯へ配布し、とても喜ばれています。グッズの配布は再訪問のきっかけにもなります。



第2部 パネルディスカッション

コーディネーターとして田園調布学園大学の村井祐一先生をお招きし、第1部の2つの発表事例から見えたことや地域で活動する際のヒントなどについて、パネリストの皆さんと話し合いました。

Q見守り活動の担い手はどうやって見つけていますか？

<地域では>

- ある教室の受講者の一人が元々別の活動をしていて、他の受講者に「協力してほしいことがある」「一緒にやらないか」と誘い、地域での色々な活動の仲間を増やして行きました。
- 地域の情報交換会などで定期的に集まって、顔の見える関係を作っています。

<区役所、区社会福祉協議会、ケアプラザでは>

- 共有してもらいたい活動の事例を、広報や研究会など色々な媒体で広く情報提供しています。
- 担い手が生まれるような、介護や福祉に関する講座を開催しています。また、普段ケアプラザでボランティアをしている人がご自分の地域でも活動するようになりました。



Q自分たちで対応できないケースを見つけた時、どのような体制を取っていますか？

- 社会福祉士や保健師がいるケアプラザに連絡し、一緒に心配なお宅を訪問して救急車を呼んだこともあります。
- 心配な方について、日頃から地域や区役所でネットワークを作っておき、異常時には警察へ連絡することもあります。

村井先生からのヒント

どうしたら良いか迷った時にはケアプラザに一度相談してみるのも手。また、誰に見守りたいのか本人の意思は第一に尊重し、見守って欲しい人につなぐ取組も大切です。

村井先生からのヒント

「ボランティア募集」と呼びかけるより「こんなお手伝いしてほしい!」など、それなら私にもできると具体的にイメージ出来る募集をした方が多くの人に興味を持ってもらえますよ。

参加者のこえ

- ♪ 日々の地道な活動の大切さを再認識できました。
- ♪ グッズの配布が地域に入っていききっかけになることが分かりました。
- ♪ ボランティア募集の仕方のヒントを早速活用したいです。

第1部の事例発表から第2部のパネルディスカッションを通して様々なヒントがでてきましたが、2地区共通の悩みもありました。その悩みとは、地域の活動者の高齢化が進み一緒に活動する仲間が減っていくため、その後継者をどう発掘し、どう育てていくかということです。「若い方たちと一緒に活動する機会を増やして根気強く続けていきたい」という発表者のお二人に対し、村井先生から「見守り活動は、孤独死を減らすだけでなく、つながりづくりや新たな課題を発見するツールでもあります。その課題の解決のために新たなネットワークができ、新しい活動者が参加することもあるでしょう。見守り活動を契機に、多くの人に参加するきっかけづくりをして欲しい。」とお話いただきました。区役所と区社会福祉協議会は、多くの人々が地域の活動に参加できるように、今回の研究会のような情報発信・情報共有の機会や、活動者の支援となる研修などを企画していきたいと思っております。